

FD Newsletter

第 10 号

長崎純心大学 教育開発・FD 委員会

発行 2022 年 3 月 〒852-8558 長崎市三ツ山町 235 番地 TEL095-846-0084 FAX095-849-1694

目次

- 教育改善の歩み 2021 1
- FD 研修会報告 13
- SD 研修会報告 14
- 教育開発委員会活動報告 15

教育改善の歩み 2021

教育に関する問題点と組織的改善

文化コミュニケーション学科

改善内容	これまでの経緯
専攻演習のゼミ決定方法を第 8 希望まで記入するように変更し、面接人数を調整するなど、よりスムーズにゼミが決定されるように工夫した。	学生のゼミ決定にあたり、できるだけ第 1 志望、第 2 志望で決まるよう、また、教員間の担当学生数のアンバランスが生じないよう工夫してきたが、なかなか効果が表れてこなかった。
今年度、初の卒業生が出るにあたり、卒論の仮提出、副査による指導、卒論発表会、卒論研究収録の作成など一連の行事を効率よく、学生に対する教育効果のでやすいよう調整した。	初の卒業生のため、これまでの方法を参照しながら、学科としての特徴を活かせるよう工夫しながら検討を続けてきた。

改善内容	これまでの経緯
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則対人援助職を目指す学生は参加するように科目を位置づけた結果、2021年度は70人以上の学生が受講し、各グループに本学学生が2人以上参加することによって更に活発な意見交換が可能となった。 ・ 学内で共修授業に参加する学生と自宅で参加する学生がいたため、学内参加者に関しては複数の教室を準備して学生を割り振ることによって、滞りなく授業を実施することができた。 <p>地域包括ケアに関する指導のため、地域包括支援センターの社会福祉士2名、急性期病院のMSW1名、慢性期病院のMSW1名が非常勤講師として参加した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの共修授業の各グループの構成人数は、長崎大学医学部生複数人に対して、本学学生1人程度であった。 ・ 2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナウイルス対策のために、Zoomを用いた共修授業を実施することになった。 ・ 2020年度においては、急遽オンラインに変更したため、地域包括ケアに関する専門職の協力を募ることが難しく2名の参加となった。
<p>長崎大学医学部や学生実行委員会との事前協議を重ねつつ、長崎大学医学部坂本キャンパスでの対面形式によるグループワークとZoomを用いた講義によるハイブリッド型の地域包括支援実習を行うことができた。</p>	<p>2020年度については、新型コロナウイルス対策のために、五島セミナーではZoomと集会形式の講義の併用、平戸キャンパスではZoomを用いて実施することになった。</p>
<p>昨年度も学内実習を行ったケースがあったが、オンラインの活用はなかった。しかし、今年度はオンラインを活用し、複数の実習指導者に協力を頂いて学内実習を実施した。また、精神保健福祉士の実習については、長崎県精神保健福祉士協会の協力のもと、長崎国際大学と合同での学内実習が、オンラインを繋いで実施できた。</p>	<p>コロナ禍のおり、2020年度は社会福祉士・精神保健福祉士の実習を行うことが困難であった実習先については、オンラインの活用はせず、学内実習に変更して本学関係者を中心に実施した。</p>

こども教育保育学科

改善内容	これまでの経緯
<p>学科の事業計画として、(1) 特色ある教育活動の取り組み、(2) 学生支援の取り組み、(3) 研究活動・社会貢献の取り組みの3点から、改善案および担当者を決めることにより、学科としての組織的な改善へ向けた取り組みが可能となった。</p>	<p>これまでも、学科の様々な教育活動について改善していこうという思いは各教員は、強く持っていたものの、個別での取り組みにとどまっており、組織だった展開は十分にはなされてこなかった。</p>
<p>本学科1年生を対象とした基幹科目の「モンテッソーリ教育学概論Ⅰ」において、教具提供実戦の紹介を増やし、全員が教具の提供を体験できるようにし、受講した学生からもモンテッソーリ教育について学ぶことができ良かったとのアンケート結果が多数寄せられた。</p>	<p>2020年度から、自由科目より本学科基幹科目として「モンテッソーリ教育学概論Ⅰ」を変更したものの、授業内容は理論的なものが中心であった。</p>

教務委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>○教務オリエンテーションのやり方などについて、新型コロナの影響により、十分な履修説明が出来ているか等の振り返りをそれぞれの学科で行い、それを共有することで、学生の履修指導の充実を目指した。</p> <p>○「遅刻の取り扱い」について、各学科で検討した上で意見をいただき、最終的にルールを決めてしまうと難しいという結論になった。</p>	<p>○前期は履修指導の時間が減り、後期はリモートで履修指導を行った。そのことにより、学生は履修に対して理解しているのかという疑念がそれぞれの学科の委員で上がった。</p> <p>○学生より、「先生方によって、遅刻の取り扱いが違う。決まっていないのか」という声が上がった。</p>

キャリア委員会

改善内容	これまでの経緯
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら各キャリア支援を遠隔（一部対面）で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の協議を踏まえ、対面のみにこだわらず、コロナ禍でも有益な遠隔によるオリエンテーションを実施した。カウンセリングも昨年に引き続き、遠隔による実施について柔軟に対応した。
<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のキャリア支援充実のため、フレッシュマン・セミナーBにおいて、行政及び県内企業の協力を得て、講演を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初年度教育におけるキャリア教育を模索する中、外部機関の協力を積極的に打診し、今回は「長崎県」に特化した就活に結び付く情報提供を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生のニーズを踏まえた、企業訪問及びインターンシップ先を確保し、実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2020 年度から長崎県インターンシップ協議会経由のインターンシップが中止又は延期されている。そのような中でも、学生のニーズを調査し、可能な範囲で実施方法を検討、実施にこぎつけた。

教育開発・FD委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>従来、授業アンケートの回答者が実際には少なかった場合も教員側には評価結果のスコア（1.00～5.00）が表示され、100名中100名から回答が得られた科目も、100名中1名しか回答者がなかった科目も、データの集計上は同等に扱われて、《今学期の授業アンケート結果のスコア平均は4.●●》のように「平均値」が算定され、表示されてきた。これは理不尽であり、事実と異なる印象を見る者に与えることにもなりかね</p>	<p>学期末恒例の「授業アンケート」は2019年度前期より、それまでの《OCRの調査紙を教室で配布し、鉛筆等で回答を記入させて回収》する方式を廃し、《学生各自のスマホ等端末からGoogleフォームで回答を送信》させる方式に改まり、経費の削減と紙資源の節約、および学生たちの負担感軽減という意味では効果があったと思われる。</p> <p>他方、委員会からは、この方法に変えた後も「可能なかぎり教室で、授業時間の一</p>

ない。そこで、事業者にデータ処理システムの改修を依頼し、2021年度前期の授業アンケートからは、

①回答者率が50%を下回ったものについては、全体の平均を算出するプロセスにあたって分母に含めないこと

②その場合、自分の授業の評価結果を端末に表示しようとした教員へは「今後、回答率を上げる努力をしてください」というメッセージと共に、グラフとスコアの欄が空白の状態に表示されるようにすることとした。

また、授業アンケートシステムに係るもう一つの改善点として、従来は、同一科目であるが複数の担当者により別々に授業が行われている場合において、教員の一人一人は、その科目全体としての評価結果しか見ることができなかった（教員個人のクラスにおける授業評価結果は出力・表示できなかった）が、システム改修後は、その両方の結果を見ることができるようになる。

（以上のシステム改修を反映した評価結果が実際に出力可能になるのは、2022年3月1日以後となる見込みである。）

部を割いてアンケートを実施してほしい」と全教員に呼びかけてきたものの、実際の実施率や回答者率について、2020年度までに検証が行われた形跡はなかった。

2021年9月に、委員長が2020年度後期の授業アンケート集計データ（業者提供）を点検したところ、次のことが明らかになった。

①この学期の評価対象《授業数》266に対して、《回答者率5割以上》であった授業は129にとどまること（つまり、《実質的な実施率》は48.5%）、

②この学期に1以上のアンケート対象科目の授業を担当した教員が114名（常勤55名+非常勤59名。主担当教員に限る）いた中で、その全ての授業においてアンケートを《実質的に実施》した教員は40名（35%。常勤教員に限れば23名で42%）にとどまること。

この結果は、コロナ禍により対面で授業を行う機会が大きく制限されたことも関係している可能性があるにせよ、一部例外を除いて原則《全科目アンケート実施》の建前と実際との間に乖離があることを意味している。さらには、毎回の集計の後、各授業評価結果のスコアとして教員側に示される数値（1.00～5.00）の信憑性を揺るがす事態でもあるため、本委員会委員長より教授会において問題提起を行うとともに、集計業者に対し、集計及び結果出力のシステムの改修工事を依頼した。

図書委員会

改善内容	これまでの経緯
<p>2 回目となる利用者アンケートを実施。アンケート結果から図書館業務や利用規則の見直しを行い、2021 年 4 月から雑誌の貸出期間の変更を行った。</p> <p>図書同様に 2 週間に変更。</p>	<p>2021 年 3 月末に学生による図書館利用アンケートについて Google form 機能を用いて、スマホからの入力を実施した。</p>
<p>図書館アンケートの結果について、学生からの多数の要望に対して 1 つ 1 つ回答し、回答内容を館内の掲示板で一定期間公開した。</p>	<p>従来、本のリクエストがあった場合は、希望する学生に対して個別に返事を出していた。</p>
<p>学生からの図書館への要望を届けやすくするために、館内にスマホから簡単にアクセスできる QR コードを提示して学生への PR を行った。公開後すぐに反応があり、その要望やリクエストが見えるようにカウンター近くの掲示板でお知らせを行っている。</p>	<p>年 1 回の図書館アンケート時に記入してもらうか、カウンターから学生の要望を聞いていた。</p>
<p>2021 年の子ども教育学科の学外で行われた「エキシビジョン」で 1 日だけ会場で展示された造形作品を再び、図書館入り口のギャラリーで長期の展示を行った。学生作品を展示できる場所として活用できた。</p>	<p>前年度も学生の作品などを展示する場所として、図書館の入り口をギャラリーとして活用していた。</p>
<p>今年度も引き続き、図書館利用者アンケートの結果から見えて来た図書館にあまり行かないと回答した学生にも関心を持ってもらえるように様々な展示やイベントを行った。</p> <p>展示 2 3 回、イベント 2 回</p> <p>司書課程学生が作成したブックリストやポップの展示 6 回</p>	<p>図書館に来ない学生たちに図書館に足を運んでもらえるように、図書館の蔵書を活用した様々な展示やイベントを多数計画した。また参加型のクイズなども企画・実施した。</p>
<p>カウンター周辺のレイアウトの変更を行った。新着図書コーナー、新着雑誌コーナー、情報コーナーを学生の動線に合わせた</p>	<p>カウンター周辺のレイアウトの変更を行った。新着図書コーナー、新着雑誌コーナー、情報コーナーを学生の動線に合わせた</p>

設置を行い大幅に変更した。学生向けの特集展示を目立つように行うことができた。	設置を行い大幅に変更した。学生向けの特集展示を目立つように行うことができた。
学生向けのライトな内容の雑誌の配架場所を入り口から目に入る場所に変更した。雑誌用閲覧棚を新たに設置した。	図書館奥の雑誌コーナーに配架していたため、気が付かない学生も多かったようである。
雑誌コーナーの移動に合わせて、男子学生向けの雑誌（スポーツやファッション）を中心に雑誌の見直しを行った。その結果、雑誌を手に取り、借りる学生が増えた。	男子学生向けの雑誌が少なかった。
カトリック文庫の複本を見直して、最大2冊までとして、書架整理を行った。その結果、書架に余裕ができ新着図書も十分に配架できた。同時に分類番号の見直しを作業も行い、大変利用しやすい書架となった。	カトリック文庫は複本が多く、書架に本が入り切れずに、利用者は使い難い状態であった。
図書館で利用できる電子書籍について2022年度から本格的に導入できるように検討を行っている。電子書籍の種類や利用方法、経費などについて研究中である。	電子書籍はほとんど購入していなかった。
学生の入校禁止期間中に図書館の本の貸出を希望する学生に対して、郵送での貸出を行った。 19人47冊の利用があった。	1月18日から入構禁止になったことにより図書館の利用を予定していた学生のために緊急の措置が必要となった。（18日からの入構禁止の連絡が17日だったため、リモート授業等のためその日に登校していない学生は試験やレポートに使う資料が借りられなかった。）
新生用に配布する図書利用館案内パンフレットを刷新した。A4カラー2つ折りにして、分かりやすい図書館利用案内とし、図書館オリエンテーションの一助とした。	例年新生に配布していた利用案内は単色で情報量（B5サイズ20ページ）が多すぎて重要事項が明確でなかった。
文学分野の図書を分類番号（900番代）順の配架として一か所にまとめて利用しやすいように再配架を行った。	文学の図書は、学生に人気のある作家や作品をカウンター近くの書架に配架し、そしてメインフロア奥の文学の書架の2か所に分けていた。利用者からは探しにくいと不評であった。

閉館時にも返却できるよう返却ボックスを設置した。設置直後から良く利用されている。	閉館時間は返却できず利用者には不便であった。
コロナ対策のための学年別対面授業の期間やリモート授業期間などは貸出期間を延長し利用者の利便性を計った。	コロナ対策のため来館できない学生が増えた。

カトリック委員会

改善内容	これまでの経緯
カトリック学生の会の学生全員と顧問教員とでライングループを作り、カトリック行事に関する活動の紹介や必要な準備事項の連絡をこまめにしあうことで、学生が積極的に参加できるようにした。	大学のカトリック関連行事は、カトリック委員会とカトリック学生の会が中心になって行われることが多い。これまで昼休みに集合して活動や準備について話しあっていたが、コロナ感染症対策のため集合が難しくなり、各自が自発的に参加を申し込めるようラインを利用するようにした。

健康管理委員会

改善内容	これまでの経緯
<ul style="list-style-type: none"> ・保健室入室前に体温測定、問診を行い感染の疑いがある場合は、保健センター別室で待機させ、状況に応じて必要な部署への連絡や帰宅させることとした。 ・糖尿病に罹患した学生の体調不良に備え、救急措置方法を実際に本人と確認して対応マニュアルを作成した。また、車椅子利用者を含め専用の休息場所を学内2か所に設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染の長期化により、継続した感染拡大防止対策が必要となった。 ・障害や病気を抱えた学生の入学により、学生が安心した大学生活ができるような支援や体制が必要となった。

実習・インターシップ支援〔教職関係〕（小学校）

改善内容	これまでの経緯
<p>「小学校教育実習指導」の指導体制を2班から3班へと増やし、学生増に対応した。</p> <p>教員採用試験対策講座の実施方法について外部業者と協議を行い、11月から6月までをカバーできるようにした。時期に応じた受験対策指導を行い、学生の意識を高めている。</p>	<p>小学校教員免許取得希望者は、男子学生の入学により、大きく増加している。学生数の増加に対応した「小学校教育実習指導」の授業充実や教員採用試験対策の充実が求められている。</p>

実習・インターンシップ支援（教職関係・幼稚園）

改善内容	これまでの経緯
<ul style="list-style-type: none"> ・Google フォームを活用して実習後の振り返りを行うことで、これまで学生が手書きで提出していた部分の負担を軽減することができた。また、教員側がパソコン上でデータを確認でき、その内容をすぐに事後指導に反映することができた。保管上の問題も解消された。 ・Googleclassroom を活用することで、学生が授業内容や資料をいつでも確認でき、提出物の効率化を図ることができた。また教員間の共通理解ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導の授業では、実習前後において多くの課題や提出物がある。課題には多くの時間と労力を費やすことから負担を感じている学生もいる。そのため、提出物の内容や方法を見直し、効率化を図った。 ・前年度同様、対面授業が実施できない場合や学生が登校できない場合に、授業内容や資料を確認できるようにした。

実習・インターンシップ支援〔実習関係〕（保育）

改善内容	これまでの経緯
<p>実習の延期に関して保、保育所においては10月まで対応し、施設は受け入れ可能になるまで対応した。</p>	<p>8月、9月の保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅰの実習時期に長崎県において「まん延防止等重点措置」が適用されたため、施設実</p>

<p>施設においては受け入れを断られた学生の実習先を選出するにあたって、受け入れ可の施設に時期をずらして依頼し、受け入れ可能な新たな施設に依頼をするなどして対応した。</p> <p>保育所において、受け入れが不可能となった学生の実習先として附属幼稚園の保育所を検討し、実習を実施できるよう依頼した。</p> <p>また、PCR検査においても、費用の一部を補填し、学生の負担を軽減した。</p> <p>2月の実習では大学より無料配布のPCR簡易検査キット（100名）を頂き、不足分は教科費より購入し、実数を控えている学生全員に配布した。実習前日に各自で検査し、陰性であることの証明、また陽性の場合に対応できるようにした。</p> <p>巡回の実習訪問に代わる内容として、電話やオンライン、メールによる方法を取り、学科の先生方にも学生の対応への協力を願い、学生が安心して実習に臨めるよう環境を整えた。</p>	<p>習Ⅰの実習施設から実習時期の延期や受け入れを断られるケースが増え、巡回の実習訪問の実施もできない状況となった。</p> <p>2月の保育所実習Ⅰ、施設実習Ⅰの実習時期にも再び新型コロナウイルスの感染が拡大し、「まん延防止等重点措置」が適用されたことにより、施設から実習受け入れを断られるケース、また今回は保育所においても事前に実習期間の延期や受け入れを断られるケースが出る状況であった。</p> <p>また巡回の実習訪問も実施できない状況となった。</p>
--	---

実習・インターンシップ支援〔実習関係〕（福祉）

改善内容	これまでの経緯
<p>介護福祉実習Ⅰ・Ⅱについて、今年度夏季の実習においては、学内実習を極力避けるために、実習施設と事業所と連絡・調整を図り、実習日程や実習期間を当初とは変更して、配属実習として行うことができた。</p>	<p>昨年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、介護福祉実習Ⅰ・Ⅱにおいて、約5割の実習を学内実習で行った。学生への教育効果や精神的負担を軽減するために、配属実習の可能性をさぐり、実習施設・事業所との調整を図った。</p>

実習・インターンシップ支援〔実習関係〕（心理）

改善内容	これまでの経緯
<p>学外実習の代替措置として、実習指導者による学内での講話およびオンラインでの講話を実施した。</p>	<p>心理実習では学外施設での見学を中心とした実習を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により受け入れが困難となった。</p>

医療・福祉連携センター

改善内容	これまでの経緯
<p>南高愛隣会との協議を重ねつつ、調査方法の事前講義を行うことにより、滞りなくオンラインを用いた利用者調査を実施することができ、学生の教育成果につながる機会になった。</p>	<p>これまで、南高愛隣会の利用者調査は対面形式で行われてきたが、2020年度は新型コロナウイルス対策のために、Zoomを用いて、調査を実施することになった。</p>

学生相談室

改善内容	これまでの経緯
<p>昨年度は電話相談は完全リモート授業で学生相談室が閉室となった際のみであったが、今年度は対面・リモートが隔週で行われており学生相談室が開室している期間でも、必要に応じて電話相談を継続的に実施した。</p>	<p>昨年より新型コロナウイルス感染拡大によるリモート授業となった際は、学生相談室に来談中の学生（希望する学生かつ必要であると思われる学生）に対して電話相談を行っている。今年度もそれを継続している。</p>

特別の配慮を必要とする学生支援チーム

改善内容	これまでの経緯
<p>1. 授業毎に配慮が必要な学生について配慮を確実に実施することを目的に、出席表の氏名の欄に当該学生についてはアスタリスクの記をつけ、把握できるようシステム改修を行った。</p> <p>2. 車いすユーザーの学生や、糖尿病疾患を持つ学生のために、学事課及び介護実習室を休憩室として準備した。</p> <p>3. 来年度の新入生より、なるべく早い段階からの支援を開始することを目的に、合格通知と併せて配慮申請書を郵送し、支援についての周知を行うこととなった。</p>	<p>1. これまでは学生毎に配慮が必要な内容を科目担当の教員へ配布するのみで、どの科目毎の学生の把握が困難であった。</p> <p>2. これまでは身体的にケアが必要な学生のための休憩室が保健室のみであったため、大学内の各所に休憩室を設置した。</p> <p>3. 今年度までは入学手続きの書類に添付して周知していたため、入学直前での支援の手続きとなり、4月の始講までに支援の体制が整わないことがあった。</p>

2021（令和3）年度FD研修会報告

2022年3月10日（木）10:00～12:30、Zoomを用いたオンラインで、2021年度のFD研修会（テーマ：オンライン授業の課題と改善の工夫）を開催しました。専任教員、非常勤講師、事務職員を合わせ76名が参加し、「チャット」による参加者から発言者への質問も時間内に処理しきれないほど多数寄せられて、リモートではあっても大変活気のある研修会となったことを、実行スタッフ（教育開発・FD委員会）としては喜ばしく思います。

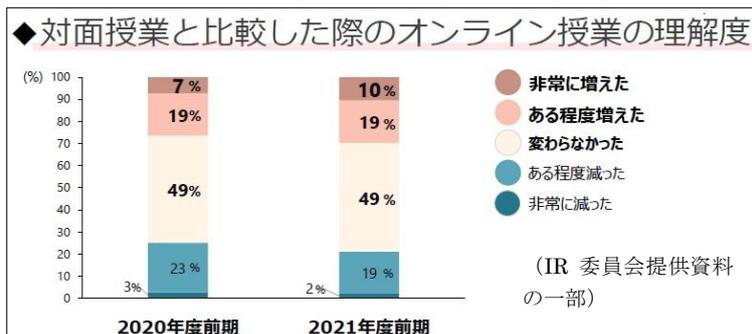
当日の司会進行は足立耕平先生（地域包括支援学科教授）が担当されました。オープニングとして、まず教育開発・FD委員長より本日の趣旨説明等があり、その後、《本学におけるオンライン授業／オンライン学習の現状と課題 一教員対象および学生対象のアンケート調査結果をもとに》と題した第Ⅰ部（①IR委員会によるアンケートの報告と分析 ②学部長コメント）、10分の休憩をはさんで第Ⅱ部《オンライン授業／オンライン学習の具体的実践例から学ぶ》（後述する3名の先生方による実践報告）、クロージングは学長先生のスピーチというプログラムで進行了ました。

第Ⅰ部では、IR委員会を代表して三浦佳代子先生（地域包括支援学科講師）より、周到に用意されたグラフデータに基づき、2020年度前期と2021年度前期の2回にわたり実施された教員対象および学生対象「オンライン授業アンケート」から見えてきた傾向が分析されました。具体的には、たしかに対面授業に比べて教員の負担感が増えており、オンラインでは「学修効果が低い」と感じる教員が半数程度いることも事実であるが、学生のアンケート結果（理解度、勉強時間、負担感）はそれほどネガティブなものではなく、オンライン授業の経験値も確実に上がっていることが明らかにされました。

第Ⅱ部（実践例の紹介）の始めにご登場いただいた三野貴志先生（文化コミュニケーション学科講師）からは、語学教育の実践例として、1年次後期の必修基礎科目「English Reading II」における取り組みについてお話を伺うことができました。録画された授業動画を毎回、授業日の朝にYouTubeにアップロードし、オンデマンドで学生に提供することを同科目におけるリモート授業の基本とされ、かつ、学生が自主学習を遂行したかの確認を対面授業（5回）時のテストによって行われたとのこと。予習の課題提出をもって出席の確認に代えることや、学生に視聴させる動画の長さを目的に応じて変えること等にも工夫がなされていました。

次に、八戸学院大学准教授の井川昭弘先生（本学非常勤講師）より、リアルタイムのオンラインで実施された集中講義「国際関係論」の授業をご紹介いただきました。Zoomの画面越しに先生が学生に対して行う解説に加えて、今回、井川先生が特に工夫をされたのは、各回のテーマに関連する動画教材（NHKドキュメンタリー番組の録画等）を豊富に用意され、授業時間中に学生に視聴させて、うち4回は感想文の提出を求めたことでした。学生たちの集中を維持し、試験勉強にも役立つように、穴埋め式のスライド資料も作成されたそうです。

3人目として、第Ⅰ部でもお話しいただいた三浦佳代子先生に再度ご登場いただき、「コロナ禍により効果を発揮したSlack活用によるゼミ運営」と題するご報告をいただきました。Slackに関する説明はここでは省略しますが、三浦先生は本学ご着任の当初より、ゼミ運営に際してこのコミュニケーションツールを活用され、特にコロナ禍に見舞われたこの2年間は、オンライン授業を円滑に進める上でSlackの利便性を強く実感されたそうです。非常に参加者の興味を引くご報告で、お話の最中にも「チャット」で何人もの参加者から反響が寄せられました。



研修会後のアンケートで参加者から寄せられた感想の一覧（67名から回答がありました）を、報告者の資料と共に本学HPのスタッフサイトに掲載しておりますので、学内の方々はぜひご覧ください（Junshin Portal>スタッフサイト>「その他」>FD研修会関連）。

2021（令和3）年度 SD 研修会報告

教-職協働のSD委員会が主催するSD研修会は2021年9月29日(水)の15:15～17:00、Zoomによるリモートで開催され、1.学長挨拶 2.新任教職員の紹介 3.山田幸子理事長による講演:《純心教育のビジョン・ミッションを考察する》 4.事務局長より連絡 というプログラムで進行しました。

上述したFD研修会と同様、こちらについても当日の資料や事後の参加者アンケートの報告などをスタッフサイトに掲載しておりますので、学内の方々はそのちから詳しい情報を得ることができます(Junshin Portal>スタッフサイト>「その他」>SD研修会関連(SD委員会))。

今回の研修会の中心をなした山田理事長先生のご講演の趣旨は、純心聖母会（純心女子学園の設置母体）の「純心教育推進プロジェクト」が2021年3月30日付で公表した「純心教育のビジョン」、ならびに、中等教育段階と高等教育段階のそれぞれについて明文化された「ミッション」を教職員一同に周知し、とりわけ本学高等教育の「ミッション」において4つの「柱」と表現されている項目の一つ一つについて、丁寧な解説をほどこされる所々がありました。学園広報等にも記されているところではありますが、本紙面にもその「ビジョン」と「ミッション」を再掲させていただきます。

【ビジョン】

「いのちの学び いのちへの奉仕 マリアの心で」

—— 私たちは、学生・生徒が真理であるキリストの愛に触れ、いのちの尊さに目覚め、他者に喜んで奉仕することができるよう、慈愛深い聖母マリアの心で、一人ひとりの知性と心を育みます。(創世記 I・27 参照)——

【ミッション】

中等教育(中・高)	高等教育(短大・大学・大学院)
<p>私たちはキリストの愛の教えに基づいて、次の3つを柱とする教育につとめます。</p> <p>(1) キリスト教的人間教育を行います。</p> <p>(2) 聖母マリアを理想とする教育を行います。</p> <p>(3) キリスト教的正義に基づいた平和教育を行います。</p>	<p>私たちはキリストの愛の教えに基づいて、次の4つを柱とする教育につとめます。</p> <p>(1) キリスト教的人間教育を行います。</p> <p>(2) 聖母マリアを理想とする教育を行います。</p> <p>(3) キリスト教的正義に基づいた平和教育を行います。</p> <p>(4) 豊かな人間性と高い専門的能力を備えた人間教育を行います。</p>

このような講演に教職員一同が接することの意義については、当日の進行役を務められた久保田浩事務局長が、後日執筆された「2021年度SD研修会を終えて」と題する文章(スタッフサイト掲載)で余すところなく語られているとおりであり、ここには、その充実した文章のほんの一部(冒頭部と結部の記述)のみを転載させていただくことで、本研修会の報告とさせていただきます。

山田理事長先生からのご講話にありました「カトリックの精神」「建学の精神」は本学の基本です。また、現在策定中の中期目標計画のトップに掲げていますが、このカトリック教育の理念です。中期目標計画では、改めてこのカトリック教育の理念をトップに掲げ「教職員全員が、この精神に基づいて自ら行動し、この精神に基づいた教育に取り組む」と記載しています。この精神が脈々と存在し続ける「純心」にこそ、学生、生徒、保護者、地域社会から、その価値を見出され、支持され、期待されている大切で基本的な部分だと思ったからです。

(中略)

世間一般の方々が、純心に接したときに、(…中略…) 永い純心の歴史を背景に地域社会の方々が、純心に対して持つイメージや期待にこたえ続けることが出来れば、そして、それをベースにさらに付加価値プラスすることが出来れば、純心はこれからも永く存続し、繁栄し続けることが出来るものと思います。

山田理事長先生のお話しは、この精神を再確認する内容だったと思います。

教育開発・FD委員会 活動報告

2021 年度

■教育開発・FD委員会（自己点検評価委員会と同時開催）

第1回	2021年4月21日	第2回	2021年5月19日
第3回	2021年6月16日	第4回	2021年7月14日
第5回	2021年10月6日	第6回	2021年11月10日
第7回	2021年12月15日	第8回	2022年2月2日

■学生による授業アンケート

前期 2021年7月5日（月）～8月5日（木）

後期 2022年1月10日（月）～2月12日（土）

■教職員による授業参観

通年で実施

■教職員FD研修会

日時：2022年3月10日（木）10:00～12:30

テーマ：オンライン授業の課題と改善の工夫

第一部・・・本学におけるオンライン授業/オンライン学習の現状と課題

IR委員会による報告と分析（三浦先生）

第二部・・・オンライン授業/オンライン学習の具体的実践例から学ぶ

①語学教育における取組の事例（三野先生）

②講義系の科目における取組の事例

<外部講師：井川昭弘先生（八戸学院大学准教授）>

③演習科目・専攻演習における取組の事例（三浦先生）

※Zoomでのオンライン形式による開催

※教職員への事後アンケート実施（Google form）

図書・雑誌の案内

※教育開発推進室所蔵の図書や雑誌の貸出しを希望される方は、図書館で手続きを行ってください。

■定期購読雑誌等

「高等教育研究」日本高等教育学科会編 玉川大学出版部発行

「IDE 現代の高等教育」IDE 大学協会発行

編集後記

本年度もFD Newsletterを公開できる見込みとなりました。年度末の忙しい時期、「教育改善のあゆみ2021」に原稿をお寄せいただいた各部署の責任者の方々には、特に厚くお礼申し上げます。筆者としては、この一年の間に、とりわけ図書委員会において学生のためを考えた非常に多くの工夫がなされたことを知り、感銘を受けました。前年度と同様、コロナ禍の下にあった大学では学生がキャンパスで過ごす日数が少なく、図書館の利用率や来館者数にも大きな影響があったと思いますが、そうした日々にあっても「学生に寄り添った絶えざる改善の歩み」の模範をわれわれに示していただいた図書委員会の皆さま・図書館職員の皆さまに、深く敬意を表する次第です。

坂本雅彦（教育開発・FD委員会委員長）